

豆類の病害虫情報

1、豆類の病害虫発生の概要と9月の発生予報

平成20年8月11日～15日に府内の黒大豆及び小豆ほ場を調査した結果、その概要は以下のとおりでした。

黒大豆		小豆	
病害虫名	発生状況（平年比）	病害虫名	発生状況（平年比）
べと病	並	モザイク病	少ない
葉焼病	やや多い	ハダニ類	並
ハダニ類	少ない	アブラムシ類	やや少ない
アブラムシ類	やや少ない	ハスモンヨトウ	やや少ない
フタスジヒメハムシ	並	サヤムシガ類	やや少ない
吸実性カメムシ類	やや多い		
ハスモンヨトウ	並		
サヤムシガ類	やや少ない		

上記の調査結果や1か月の天気予報等を踏まえて、9月は黒大豆では、吸実性カメムシはやや多い、ハスモンヨトウはやや少ない、ハダニ類はやや少ないと、小豆では、ハスモンヨトウはやや少ない、ハダニ類は平年並と予想しています（平成20年8月21日付病害虫発生予報第7号参照）。

2、黒大豆

8月の調査ではハスモンヨトウの発生は平年並でしたが、8月第3半旬以降、フェロモントラップへの誘殺数が増加してきています。また、8月25日現在、農総研内のほ場でも卵塊が見られ、現地でも若齢幼虫が散見されていますので、ほ場をこまめに見回り早期発見と防除に努めてください。

黒大豆の吸実性カメムシは、主にホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ等です。莢が付き始める頃から飛来、増殖し、黄変時期まで加害を続けます。薬剤防除を若莢期から10日間隔で2～3回行うことが大切です。

3、小豆

ハスモンヨトウについては、黒大豆同様ほ場をこまめに見回り早期発見と防除に努めてください。小豆の子実害虫にはアズキノメイガ、マメノメイガ、サヤムシガ類等がありますが、これらは茎や莢等を食害し収量や子実の品質に大きな影響を及ぼします。8月の巡回調査ではサヤムシガ類の発生は、平年比やや少ない発生でした。また、近年、ハスモンヨトウ、オオタバコガも子実を加害することが確認されています。

- 子実害虫は幼虫が茎や莢内に食入すると、防除効果が劣ります。このため、幼虫ふ化時期～食入開始時期の防除が重要で、開花始めから10日間隔で2～3回防除することが大切です。

なお、アズキノメイガは8月下旬から、マメノメイガは9月上旬から発生が始まります。

- ハスモンヨトウ、タバコガの発生は、アズキノメイガ、マメノメイガと発生時期が異なる場合があるので、注意してください。

府内の一部ほ場でスズメガの食害が報告されています。今後も発生が懸念されますので、こまめに見回り、発生を確認したら、捕殺等で防除しましょう。